

グリーン四国

No.1258
2025年
1月号

竹内局長年頭あいさつ 【詳細は2頁】



桂浜から初日の出

目次

・ 年頭の御挨拶	2
・ 誘導伐現地検討会	3
・ 高知農業高校生と千本山登山学習	4
・ 利岡小学校足摺植物園と佐田山を散策	5
・ 奈半利小学生が野根山街道を散策	6
・ 秋が深まる中、高知県西部と愛媛県南予の小学校四校で森林環境教育を実施 ..	7
・ 独立行政法人農林漁業信用基金からのお知らせ	8



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

年頭の御挨拶

四国森林管理局長
竹内純一

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様方には、日頃より林野行政の円滑な推進と国有林の適切な保全管理に格別の御支援、御協力を賜っておりますことに対し、感謝申し上げます。

四国森林管理局が管理する国有林は約19万haで香川県に相当する面積となっております。国有林は四国山地に多くあり、水源地域となるほか石鎚山、剣山等の名峰、希少生物の生息地もあります。このため、国有林の管理は土砂の流出防止、水源のかん養、自然生態系の保全など森林の公益的機能が



四国森林管理局長
竹内純一

十分発揮されるように配慮しています。

一方、人工林の多くは利用期を迎えております。「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用のサイクルを確立することにより、2050年カーボンニュートラルの実現と地域の林業・木材産業の成長産業化に貢献していくことが重要と考えています。

このため、四国森林管理局といたしましては、森林を適正に管理し公益重視の管理経営を一層推進しつつ、木材の生産や販売事業等についても的確に実施し、地域の実情に応じた国有林材の安定供給に取り組んでおります。また、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現を目指して、伐採と造林の一貫作業、下刈りの省力化

や大苗の導入、ドローンなどデジタル技術の活用による生産性の向上、シカやノウサギ等の獣害に対する捕獲や防除対策などの各種技術の実証・普及にも努めております。さらには、国民の皆様の生命・

生活を守り、国土強靱化にも資するため、直轄治山事業の実施、災害時に迂回路としても活用できる国有林林道等の整備、市町村への人的支援の実施など、局の組織・技術・資源を活かした対応にも努めております。

今後とも地域の皆様と連携しながら職員一丸となって業務に邁進してまいりますので、より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この一年の皆様の御健勝、御多幸を心よりお祈り申し上げます。



誘導伐現地検討会

〈徳島森林管理署〉

11月27日、徳島県三好市東祖谷の栗枝渡国有林で誘導伐の「効率的な伐区設定について」現地検討会を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、徳島県、三好市、森林整備センター、徳島森林づくり推進機構、林業事業者、四国森林管理局及び各署等から51名の参加がありました。

現在、国有林野では、面的複層林施業等の先導的な取組を進めており、今年度徳島森林管理署においても帯状伐採による誘導伐（育成複層林施業）を実施しました。今回の現地検討会では、実際に現地を見ていただき、伐区設定等における検討課題について参加者から幅広いご意見を頂戴し、今後の事業実行に生かすこととしております。

意見交換では、「等高線に対して縦方向に伐区を設定した場合と横方向の場合で作業工程は違うのか。」との質問に対し、事業を受注



担当者より説明



誘導伐（伐区を縦方向）

した三好西部森林組合から「縦方向の伐区では伐倒・集材作業だけに着目すると、集材距離の短い横方向に設定した伐区の能率が良いが、枝状処理までトータルで比較すると現地

の条件によるため一概にどちらが良いとは言えない。」との説明がありました。他の参加者からは区域全体の形状や林地傾斜等、現地の状況に合わせた伐区の設定が重要との意見がありました。

また、今回の検討会では、帯状の伐区選定にあたり効率良く測量作業が行える機種を選定するために、①「Mapry 林業」による測量② ARJQ（アルク）とGNSS受信機 Geode（ジオード）による測量③ モバイルマップパーと2周波アンテナによるGNSS測量④モバイルマップパーとトゥルーパルスによるコンパス測量⑤GARMIN（ガーミン）GPS内蔵ハンディナビゲーションによる測量⑥ポケットコンパスによる測量を実施し、それぞれの伐区設定及び現地表示に要した時間や測量成度等を比較した結果を紹介しました。

今回、使用した機器の熟練度に差異があり、比較結果の確度は必ずしも高くありませんが、例えば、スズタケの繁茂した見通しの悪い箇所ではコンパス測量は不利となり、一方で樹冠がつつ閉じGPS衛星を補足しにくい箇所でのGNSS

測量は精度が落ちました。機器の特性と現地の林況に合わせてベストマッチする測量手法を選定することが効率的であり、今後も様々な手法での実績を積み重ねることが重要ではないかとの結論となりました。

森林の有する多面的な機能を将来にわたって発揮するためには、小面積の伐採等によるモザイク状の林分配置を含めた面的複層林への誘導伐、天然林を活用した針広混交林への誘導伐など、多様な森づくりを推進することが必要となります。傾斜や地位、車道からの距離等を勘案しつつ、引き続き、積極的に面的複層林施業を進めて行きます。



現地を確認

高知農業高校生と 千本山登山学習

〈安芸森林管理署〉

高知県立高知農業高等学校森林総合科では、毎年、一年生を対象に、現地実習として当署管内の千本山保護林で登山学習を行っており、今年も11月28日に、生徒25名、教職員3名、当署職員6名、局職員4名が参加し実施しました。



『鉢巻き落とし』を見上げる生徒

生徒たちは入山前に、当署の職員から千本山保護林の概要と入山時の注意事項等の説明を受けた後、登山道入り口に架かる橋を大きく揺らしながら渡り、元気いっぱいに出発しました。登山道入り口近くにある「橋の大杉」を森林官とともに囲み、魚梁瀬杉の雄大さを目の当たりにした生徒たちは、その後も「親子杉」の間に座って休憩したり、「根上がり杉」の下をくぐってみたいり、保護林内にある樹木の説明を聞いて実際に樹皮のにおいを嗅いだり、巨大な切り株の林齢を数えるなど各所で名前が付いた大杉と触れ合い、千本山でし



『親子杉』と休憩

か味わえない魚梁瀬杉の魅力を全身で体験しながら展望台を目指しました。



『根上がり杉』と集合写真

登り始めの急な傾斜に息を切らしていた生徒たちも、後半になれば千本山ならではの巨大な木々が織りなす景観を楽しみ余裕をみせ、誰も遅れることなく展望台にたどり着くことができました。

展望台では、登山を一緒に頑張った仲間との団欒と昼食を景色とともに楽しみました。展望台で十分

な休憩をとった後、下山を開始しました。生徒たちは寒さや疲れをものともせず、談笑しながら橋の大杉を目指して歩を進め、根上がり杉と集合写真を撮り、今回の登山学習を終りました。

当署では、千本山保護林の登山学習を通して、高知県を代表する希少な魚梁瀬スギの魅力を感じることで、森林やそこに生育する樹木などにも興味を持っていただくとともに、森林管理の重要性も認識していただきたいと考えております。

今後も森林環境教育等の実施を通じて森林・林業の普及活動を取り組んで参ります。



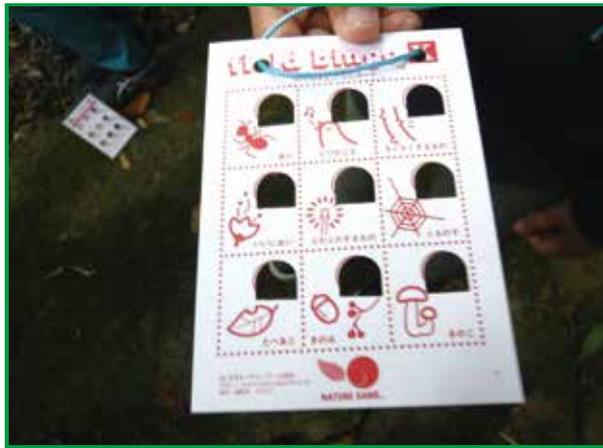
利岡小学校 足摺植物園と 佐田山を散策

〈四万十森林管理署〉

11月21日、高知県四万十市立利岡小学校の生徒を対象に森林教室を開催しました。全校児童14名と教職員5名、四万十森林管理署職員7名が参加しました。

午前中、土佐清水市足摺山国有林にある足摺亜熱帯自然植物園において、「カモフラージュゲーム」と「ビンゴゲーム」の2種類のネイチャーゲームを行いました。カモフラージュゲームは、林内に隠されている人工物を見つけてもらうゲームで、鋭い観察力が必要となります。大人でも頭を悩ます難易度でしたが、全て見つける児童もあり、大いに盛り上がりました。ビンゴゲームは、「きのこ」や、「良い匂いのするもの」といったお題がマスに書かれたビンゴカードを配り、該当するものを見つけて穴をあけ、ビンゴを目指すゲームです。児童たちは配られたビンゴカードのお題に沿ったものを林内から

次々と探していき、全てのマスをあける児童もいました。各々がお題に該当する物はないか、周りの自然に目を向け、通常なら見過ごしてしまいそうなものに興味を向け、観察している様子が見受けられました。



ネイチャーゲーム終了後、足摺岬で海を眺めながら昼食をとり、午後からは佐田山国有林へハイキングに向かいました。

佐田山国有林はシイやヤッコソウなど遺伝資源の希少個体群保護林に指定されるなど、貴重な生態系を持つ山となっています。特に10月中旬から12月上旬ごろに見こ

ろを迎えるヤッコソウを観察することができません。ヤッコソウは、全長4、5cm程度の大きさで、シイの根に寄生し葉緑体を持たない希少な植物で、高知県レッドデータブックの絶滅危惧ⅠB類に記載されています。児童たちは地面から少し顔を出しているヤッコソウを見つけ、興味深く観察を行っていました。途中、枯損しているシイの木の前を通りがかった際に、職員からカシノナガクイムシという虫の食害によるものだという説明がされました。児童たちは枯損しているシイの木の周辺でヤッコソウを探しましたが、生育できる環境ではないため、見つけることができず、自然保護の重要性について考えている様子でした。

ハイキングを終え、全日程が終了した後、児童たちからは「楽しかった」「また行きたい」という声が聞けました。当署では、引き続きこのような森林環境教育の体験を通じて、自然に触れる楽しさを学んでもらい、森林・林業に理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。



奈半利小学生が 野根山街道を散策

〈安芸森林管理署〉

11月12日、奈半利小学校の6年生17名、保護者14名、引率教員3名、当署職員6名で野根山街道風景林を散策しました。この行事は「自然に親しむ体験」と「地域の歴史学習」を目的に、奈半利小学校の伝統行事として毎年この時期に行われています。

野根山街道は、奈半利町から東洋町を結ぶ全長約35kmの山道で、今から約1,300年前に作られ、古くは「土佐日記」の著者である紀貫之が入国した道です。その中でも魅力あふれる宿屋杉登山口から米ヶ岡までの約7kmのコースを約4時間かけて歩きました。このコースには、江戸末期に造林したスギ林である「旧藩林」や参勤交代などの休憩場所の1つであった「お茶屋場」などがあり、歴史を感じる事ができます。

参加者は、宿屋杉登山口にて森林官から足元に気を付けて進むよう注意を受けた後、宿屋杉をバツ

クに記念撮影を行い、散策を開始しました。



足元に気を付けて～

道中、高知県東部で「かんたろうミミズ」とよばれているシーボルトミミズやカエルなどを観察したり、手をつないで大径木を囲んだりと自然との触れ合いを楽しみながら進みました。

お昼休みには、超音波樹高測定器を使った樹高測定の実演を行い、興味をもっていた先生方に実際に樹高を測ってもらいました。終盤は、石畳や下り坂など険し

い道もありましたが、全員そろって、怪我なく元気にゴールすることができました。

ゴール付近の休憩場所では、児童たちが「宿題なしにして〜」と声を合わせて叫ぶなど、のびのびとした姿が見受けられました。

今後も、自然と触れ合いながら、地域の歴史を学ぶことのできるこの伝統的な行事が受け継がれるよう、協力していきたいと考えています。



17人で手をつないで



宿屋杉と記念撮影

秋が深まる中、 高知県西部と愛媛県南予の 小学校四校で 森林環境教育を実施

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

当センターが、高知県西部と愛媛県南予の小学校四校からの要請を受けて、11月に行った森林環境教育の様子を紹介します。

松野町立松野西小学校では、4年生10名を対象に、四万十川の支流である目黒川の源流域の森林となる八面山（標高1,165m）及び大久保山（標高1,158m）登山を行いました。

当日は絶好の日和に恵まれ、登山道のブナやミズメなどの木肌に触れ、樹皮の匂いをかいだりしながら山頂を目指しました。

山頂に着いてからは、九州や宇和海、佐田岬半島、石鎚山などがくっきり見えたので、地理的な位置や方を学習したり、お菓子の袋による気圧の変化を体験したり、さらにネイチャーゲーム等による五感を使った体験を通して森林や自然への関

心を深めてもらいました。



大久保山
山頂で記念撮影▶
自分だけの小箱づくり▼



登山は初めてという児童も多く、苦戦している様子も見られました。が、山頂2つを踏破したその頑張りが自信につながったのか、帰りに「いろいろな体験をしてメッセには「いろいろな体験をしてメッセ楽しかった。」と笑顔に変わっていました。

また、日を改めて、土にすむ生物の学習や水の土壌浸透実験を行いました。

最初に、座学で土の中の生き物の役割について学習した後、小学校の畑や花壇の土の顕微鏡映像をスクリーンに映し観察し、土の中

にすむ小さな生き物たちが豊かな土を作るために大切な働きをしていることを学習してもらいました。

次に、「木のある山」と「木のない山」を再現した模型を使い、この模型にジョウロに入れた水を雨水に見立てて降らせ、時間の経過による変化を調べる実験・観察を行い、森林が雨水を吸収することで土砂の流出を防ぎ川の水量を調整して自然災害からくらしを守っていることなどを理解してもらいました。

松野町立松野東小学校では、3・4年生計11名を対象とした木工教室を行い、「木材の特徴」について説明した後、カナヅチャやクギ、接着剤の使い方や木工工作の作り方、注意点を説明した上で、ヒノキムク板を使用した「スーパーパーピエー小箱」を作成してもらいました。

釘打ちの合間に、ヒノキの香りや木製品特有の手触りの良さといった感覚に触れてもらいながら、各自が製作した小箱に自由な発想で貝殻や木の実、木片、小枝などで飾り付けをして完成させました。

四万十市立藤岡小学校では、3・6年生計10名を対象とした森林・

木工教室を行いました。

森林教室では「山（森林）からの贈り物」という紙芝居教材を使って、森林の役割について児童と対話形式で学習を進め、木工教室ではクリスマスツリーを作成してもらいました。

このほか四万十市立西土佐小学校2年生9名を対象に木工教室を行いました。

当センターでは、学校等教育機関の要請にも応えつつ児童・生徒を対象とした活動や体験ができる森林環境教育への支援を推進しています。



紙芝居で
森林の役割を学習▶

木工教室の様子▼



独立行政法人農林漁業信用基金からのお知らせ

林業信用保証のご案内



- ・災害で設備が被災してしまった！再建したいが。。
- ・新たに会社を設立したけれど、まだ実績がなくて銀行に融資してもらえない…
- ・今まで造林・育林業を営んできたが、**素材生産業も始めたい**なあ…

このようなお悩みについて
公的保証制度でみなさまの資金調達をお手伝いします！

【林業信用保証の主な内容】(幅広い業種・資金を対象にしています。)

対象となる業種	①造林・育林 ②素材生産 ③木材・木製品製造 ④薪炭生産 ⑤林業種苗生産 ⑥きのこ生産 ⑦木材卸売等 ⑧木材製品利用
対象となる資金	・ 苗木、立木、資機材の調達費、燃料費、人件費、機械のリース料などの 運転資金 ・ 事務所・工場、林業機械、木材加工機械、運送用車両等の導入などのための 設備資金 (中古の機械等も対象です。)
保証料	・ 年0.15～1.80%と低位で、財務内容により適用されます。 ・ 日割り計算のため無駄がありません。 ・ 保証料が最大5年間免除になる保証メニュー も複数あります。

【保証のご利用にあたって】

保証については一定の審査がありますが、令和6年8月より融資機関からの事前相談をメール等でも受け付けることとし、利便性の向上に努めております。
 是非お近くの融資機関にご相談ください。

【お問い合わせ】

独立行政法人農林漁業信用基金 林業信用保証管理部／林業信用保証業務部
 電話：03-3434-7825（融資機関以外の方）／03-3434-7826（融資機関の方）
 URL：<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html>



入林される皆様への注意事項

- 国有林に入林する際には、以下の事項について注意してください。
- ①草木やキノコなどの採取、樹木の伐採や損傷をしないでください。
 - ②自然保護などのために立入が制限されている箇所へは入らないでください。
 - ③ゴミは持ち帰りましょう。
 - ④枯木や枯れ枝は危険ですので、近寄らないでください。
 - ⑤タバコなど火の取扱いには十分注意してください。
 - ⑥林道は未舗装箇所が多数あります。通行の際はご注意ください

登山は自己責任です。天候や登山情報を確認し、十分な装備で入山してください。また、ご家族へ行き先を告げるとともに、登山目的地を管轄する警察署等へ登山計画書を提出してください。